

## 第56回建築士会全国大会 しまね大会紹介

### 4) 民家 1 松江の民家

松江市も合併によって周辺の6町1村を取り込みました。そのためかなりの広さになったのですが、おかげで多くの民家も松江市に編入されました。



荒布屋(江戸期)



市街地の格子のある民家

松江市は城下町ですから当然市街地には町屋が多く存在します。

市街地から一步外に出れば茅葺民家の、日本昔話調の民家が点在するのが目につきます。合併によって多くなったのは農村、漁村の風景です。松江の市街地は空襲の被害は多くなかったのですが、数度の大火によっ



八雲本陣(木幡家) 江戸中期



重文 木幡家の土間

て大きな被害を受けています。江戸・明治時代の町屋となると多くはありません。八雲本陣と呼ばれる民家は穴道町にある江戸期の本陣宿です。江戸時代中期の建物で、重要文化財指定を受けています。実はここには



農村の茅葺民家(八雲町)



移築民家(茅葺会館)

利休作と伝えられる茶室がありました。証拠もないし、あまり利休らしくないということで、どこかで眉に唾が入ったのかもしれません。今は組み立てられて松江歴史資料館内に公開されています。農村にある民家の特徴の一つは赤瓦、そして棟に乗る来待石。そしてたまに家紋や鏝絵の入った妻壁が見られます。茅葺民家の棟の反りは斐川地方に



多く残りますが、松江市内にも反り棟を持った茅葺民家も現存します。

農村の民家